

# 言語活動を通じた伝統や文化に関する教育の充実による言葉への関心を持つ児童の育成 活用番組：ひょうたんからコトバ 宮崎県都城市立高城小学校 水野 宗市

## 1. 子どもの実態と培いたい「生きる力」

子どもの口からは「はずい（恥ずかしい）」「めっちゃ〜」「～的には」「やばい」「きもい」など、若者言葉と言われるこれらの言葉が時々聞かれる。これらの言葉は、児童たちの中にも抵抗なく入ってきて、深く考えずに自由に使う面が見られる。逆に、「故事成語」「ことわざ」など、昔から伝わる様々な伝統的な言葉が児童たちの口から出てくることはほとんどない。

(アンケートより)

○ 故事成語を知っていますか？	知っている・・・ 0%	知らない・・・100%
○ ことわざを知っていますか？	知っている・・・58%	知らない・・・42%
○ 俳句・短歌を知っていますか？	知っている・・・3%	知らない・・・97%

ことわざについては、幼稚園児・保育園児対象の番組で「ことわざ」を扱っている番組や正月のカルタなどで目にすることもあり、半分以上の児童が知っているとあげているが、その意味や四字熟語と区別が付いていないものもいた。

【培いたい力】・・・言葉への関心を持つ児童（言語文化に親しむ態度、豊かな言語感覚）  
→「生きる力」との関連・・・言語力、好奇心、感じる心

## 2. 番組について

番組は、映像やアニメーションと文章とを併用することで、わかりやすく「故事成語」や「ことわざ」の意味や使い方を示し、児童の理解を高める教材である。大人でも難しい「故事成語」について、子どもにわかりやすく伝えるために本番組を活用する。また、ことわざ・慣用句・故事成語などをとりあげ日本語の豊かな表現方法を紹介する本番組を視聴することで言葉について学習する場を設定する。

「ひょうたんからコトバ」は、文化審議会答申「これからの時代に求められる国語力について」（2004年）や中央教育審議会答申や新「学習指導要領」（2008年）で求めている『小学校から「古典」などとおして、「ことわざ」や「慣用句」、「故事成語」などに触れること』についての学校での取り組みをサポートすることを主なねらいとしている。番組のホームページには『子どもを取り囲む言語環境が貧しくなりつつある今日、本番組は教室における子どもと言葉との出会いがより豊かで楽しいものになるようにできるものとする。』と記されている。

## 3. 実践

### (1) 概要

活用するにあたり、右図のように番組を分析し活用の方法を探った。本番組は毎回のテーマに沿った「故事成語」「ことわざ」「短歌・俳句」「日本語いろいろ」の4つのコーナーに分かれて放送されている。そこで今回、番組を15分間通して視聴するのではなく「分断視聴」させ、それにより各コーナーごとによりわかりやすく学習に取り組めると判断した。

番組の時間配分は、故事成語に約5分、ことわざに約4分、日本語いろいろに約4分と、この3つを柱として番組が構成されている。今回の実践は「故事成語」「ことわざ」「日本語いろいろ」の3つのコーナーを中心に、「理解する場と考える場の設定」「児童の主体的な学習」を考え、また、各コーナーの内容を見ると、アニメーションや有名人による体験談、映像と語り、パントマイム等による興味・関心を高める工夫など児童の意欲を喚起する内容が盛り込まれている。このように番組を分析することで、中学年でも理解しながら学習を進めることができると考えた。また、今回の実践は「故事成語」「ことわざ」「日本語いろいろ」の3つのコーナーを中心に学習を展開することが良いと判断した。

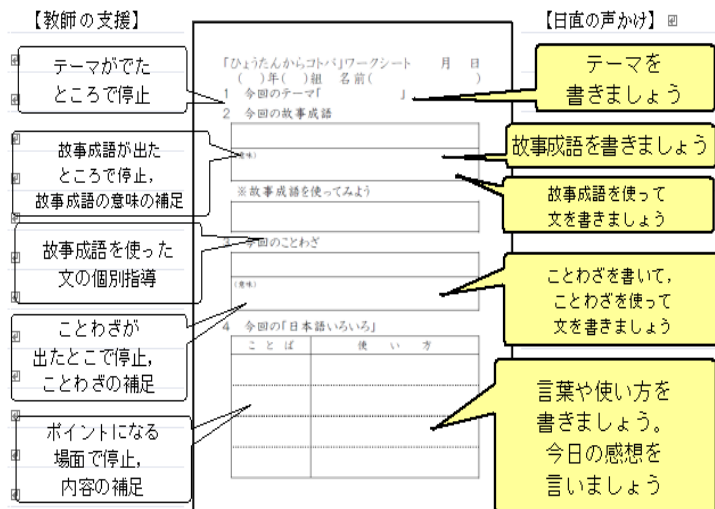
時間	番組の詳細な内容
0'00	今日のテーマについて
0'40	今日の「故事成語」・・・(文字)
0'48	○故事成語の活用場面1(アニメーション)
2'00	○故事成語についての説明(画像と音声)
3'25	○故事成語の意味(文章)
3'40	○故事成語の活用場面2(アニメーション)
4'15	○故事成語を活用した文章の提示
4'25	○故事成語の活用場面3(アニメーション)
5'05	○故事成語を活用した文章の提示
5'35	今日の「ことわざ」・・・(文字)
5'40	○ことわざの説明(画像と文字)
6'00	○ことわざについて有名人の体験談を通じた説明
7'50	○テーマに関する他のことわざの紹介とその活用(画像と文章)
9'00	今日の「俳句・短歌」・・・映像と文章、音声
10'15	今日の「日本語いろいろ」
15'00	○テーマに関する様々な日本語(3~5語)の紹介と活用(映像と文章)

コーナー	具体的な内容
故事成語	アニメーションを中心として、故事成語の活用場面→故事成語の成り立ちと意味→故事成語の活用場面2（使い方を明確にした例文を含む）と進む。
ことわざ	画像を活用した「ことわざ」の説明の後、有名人による体験談を通した「ことわざ」の具体的な説明を行う。その後、様々なことわざを紹介する。
俳句・短歌	俳句（もしくは短歌）の場面を表す情景の映像をメインとして、俳句（短歌）を文章で表し、アナウンサーの上手な語りで表現する。
日本語いろいろ	季節に関する言葉や体に関する慣用句、江戸時代の言葉などテーマに即した日本語ならではの表現をパントマイムを通して楽しく表現する。

【学校放送番組「ひょうたんからコトバ」各コーナーの詳細な内容】

## (2) 内容

### ○ 理解する場と考える場を1単位時間に設定



「故事成語」や「ことわざ」の視聴は「理解する場」、視聴の後一時停止し学習した「故事成語」や「ことわざ」を活用した文章を作成する「考える場」を設定した。「日本語いろいろ」は、言葉の使い方や他に知っている言葉などを確認していった。

毎回の学習は、ほぼ同じような形式で繰り返し学習が進められるので、ワークシートを活用し（左図参照）、児童が主体性を持って学習に取り組めるように進行は児童が行うようにして、教師側は「難しい言葉の意味や使い方の補足」「文章作成において苦手意識を持つ児童への個別指導」「必要と思われる助言」を行うのみとした。

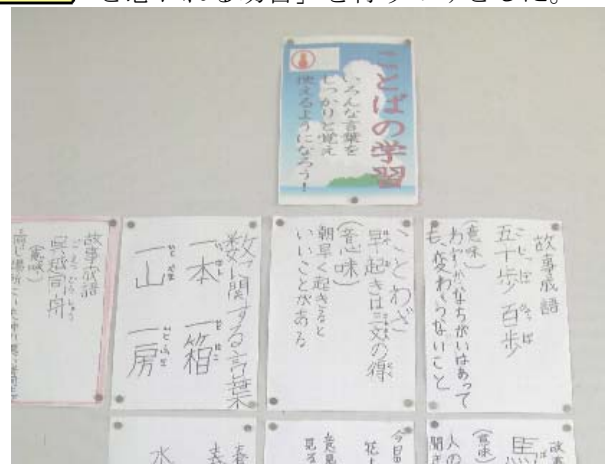
### ○ 学習内容を定着させるための教室環境の工夫

学習した直後は、印象に残り覚えているが、時間がたつにつれて記憶が薄れてくる。学習内容を定着する工夫として、学習した内容を教室に掲示することとした。

自分たちが意識して覚えるように、番組終了後、グループごとに、学んだ故事成語やことわざをワークシートをもとに、責任を持って記載し、掲示するようにした。これにより休み時間など、掲示してある場所に行き、言葉や意味を覚えようとする児童たちの姿が見られるようになった。自分たちで書いたものという意識が強かった。

### ○ 学習内容定着のための場の設定

学習内容を定着させるために有効な手段として、フラッシュカードの活用がある。そこで、学習した故事成語、ことわざ、日本語などの意味を覚えていくように、パソコンのプレゼン機能を活用してフラッシュカード的な教材を作成した。3～5分程度の簡単なものなので、朝の会や授業の導入の段階などに取り入れていった。繰り返し何度も行っていく中で、少しずつ定着していった。



## 4. 実践を終えて

「ひょうたんからコトバを見て、はじめて故事成語を知りました。すごいなあと思いました。故事成語を使って文を書くのはむずかしいけれど慣れてくると少しずつ書けてうれしかったです。」

「これからも、もっといろいろな言葉を覚えてその言葉をいっぱい使いたいです。」

「初めて知った言葉があるとどんな意味か考えます。家に帰ってお母さんに問題を出しました。」

「自分が書いた言葉はしっかりと覚えようと思いました。」

休み時間に、後ろの掲示物を一人で見ている子、数人で話しながら見ている子、時間がたつにつれてそんな姿を見る機会が増えた。感じ方はそれぞれであるが、言葉への関心をさらに高めたということ、それぞれの感想から感じることができた。課題として「年間学習指導計画における明確な位置付け」「学年間での繰り返しの指導の必要性」「番組活用後における指導の工夫」を感じている。